鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
櫻 井 真 弓
〒085-1205 鶴居村中雪裡南　☎64-2620／FAX64-2239

鶴居 タンチョウ　検索

「タンチョウの餌づくりプロジェクト」だったかもしれない話

「タンチョウと共生するむらづくり推進会議」の「地域住民のかかわり部会」では、タンチョウ保護の歴史や、村民とタンチョウとの関わりについての記録を残そうと、聞き取り調査を始めました。金沢大学の菊地准教授に講師として来村していただいたり、調査員同士で意見交換をしたりと、より良い形でタンチョウ保護の歴史を残し伝えていこうという思いで、調査を進めています。

11月にお話を伺った雪裡原野の久保田豊市さんは、北海道の給餌人として長年タンチョウ保護のための給餌を続けています。給餌を始めた当時の苦労話もありましたが、苦労を苦労と言わない久保田さん。楽しそうに懐かしそうに当時を振り返る人柄に、鶴居村への郷土愛とタンチョウへの温かな想いを感じました。

久保田さんのお話の中で、給餌を依頼されるきっかけにもなった出来事として、グリーンパークの北側、久保田さんの敷地の南側に接する場所で、鶴居中学校の生徒さんがデントコーンを作っていたという話をお聞きしました。時期は昭和40年代中頃、期間は２年間くらいですが、中学生の皆さんが通ってきて、畑でデントコーンを作っていたとのこと。収穫したデントコーンは、もぎ取ってその場に放置され、タンチョウも食べていたとのことです。何故その場所で中学生がテントコーンを作っていたのかは、分からないそうです。そして、中学生がその畑でデントコーンを作るのをやめたタイミングで、鶴居村教育委員会の人から給餌を依頼されたとのことでした。

タンチョウコミュニティが「タンチョウの餌づくりプロジェクト」を立ち上げたのは、平成20年度。当時、我が家の子達が、下幌呂小学校に通っていたこともあり、その活動を見守る中で、なんて斬新な取り組みなんだろうと思っていました。ですが、もし40年も前に、タンチョウのために中学生がデントコーンを作っていたとしたら…！?

タンチョウの餌づくりは、我が家の子達にとって、他の地域にはない特別な活動ということもあり、鶴居村で過ごした子供時代を象徴する良い思い出になっているようです。グリーンパークの北側でデントコーンを作っていた中学生は、もしかしたらタンチョウの餌づくりの先駆者かもしれない。とすると、いったい当時の中学生がどんな思いで作業をしていたのだろうか？　昭和40年代の中学生と平成の子どもたちの、タンチョウへの想いの違いなども垣間見ることができるのでは？　など興味が尽きません。

現在、65才くらいかなと思われる当時の中学生に、ぜひともお話を聞いてみたいのです。広報をご覧になっている方で、グリーンパークの北側でデントコーンを作っていた、元鶴居中学校の生徒さんはいませんか？　また、デントコーンを作ることになったいきさつなど、当時の詳細を知っている方はいませんか？　情報提供など、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ（64-2620）の櫻井まで、連絡を下さい。タンチョウ保護の歴史を紐解く聞き取り調査に、ぜひ、ご協力をお願いいたします。